

# 気胸センター開設へ

来月上旬にも整形外科医も確保

高砂市民病院（高砂市荒井町）が2014年度、経営難を打開するため、新事業を導入するなどこ入れを図る。肺に穴が開いて呼吸困難になる疾患「気胸」の手術実績は全国上位に入っており、県内初となる「気胸センター」を3月上旬にも院内に開設する方針。不在だった整形外科の常勤医師についても2人の4月採用が決まり、経営好転に期待が膨らむ。

（安藤文暁）

気胸は主に若者の肺

に穴が開く「原発性自然気胸」や、高齢者で肺の疾患が原因の「続発性自然気胸」などがあり、痛みや息切れで死に至る危険性も。たまたま空気を抜いて治らない場合は、切除する手術が必要とい

夫、最新機器の導入な

同病院の呼吸器外科では現在、常勤の専門医2人を中心に、傷を1カ所しかつけない「単孔式手術」（通常は3カ所）を取り入れるほか、麻酔科医と連携した痛み止めの工夫、最新機器の導入な

どに力を注ぐ。

専門組織は東京、岡山など数カ所しかない。若者の発症では受験や就職に気を遣うケースがあり、高齢者は糖尿病などほかの疾患治療との調整が必要で判断が難しい場面が多いが、年間約70例の手術実績を生かそうとセンター化を決めた。

3月末には常勤の内科医11人のうち2人が退職。ただ、昨年7月に新設の「緩和ケア病棟」と、増設の「人工透析病棟」が半年で約2億円の収益を生むなど好調で、不在の整形外科に岡山大の医師2人が決まったこともあり、事業収益は回復が期待できるといふ。

加古川市が市民病院の統合を進めているが、高砂市の担当者は「大切なのは競合ではなく、地域医療の向上。特色ある病院づくりに取り組んでいきたい」と話した。



昨年の緩和ケア病棟に続き、気胸センターなど新事業に取り組む高砂市民病院＝高砂市荒井町紙町

同病院は13年度決算で約5億4千万円の資金不足が見込まれるため、市は3月補正予算案で繰入金計上。医師不足が全国的な課題となる中、整形外科の常勤医師3人が神戸大に引き揚げられ、入院収益が前年度比で約3億5千万円減った上、患者離れはほかの診療